







特別寄稿

川西中学の統合に思う

石沢邦治

四月一日に発足した川西中学校は、驚きおける十五日、大雪の跡を残す中、消えの中に建つ千手校舎、いとも静かに画期的な開校式をあげました。わずか二年たらずの短時日のうちに田圃に統合にふみきり、開校式のはこびにいたったことは、堅実な町づくりの進展の結果であり、他にあまり例を見ない画期的な事実として御同慶にたえませぬ。

同じく事を処するに、学区民や市町村当局の複雑な感情のもつれから、大なり小なりの学校紛争が起り、数年を経過する今日いまだに収拾がつかず、純情な生徒がいたずらにおとなの政争の犠牲となつてゐる実情がほろほろに見受けられます。その顕著な一例に、南蒲は中之島村北中学の統合問題があります。新学制発足以来、懸案の学校統合が十四年の歳月を経た現在、校舎建築位置の問題で、まだに小学校の間借り生活を続け三つの小学校に分散してゐるありさまで、最近その一部は隣町の地蔵堂中学に委託入学をさせようとしてゐるとわれ、感情のもつれから、二百十五名の生徒は三つの寺院で不自由な小規模授業を余儀なくされてゐるのが実情であります。『中学校時代は二度とこない、わたくしたちのこの犠牲を一体どうしてくれるのか』と、小さい者の

無言の訴えが叫ばれてゐるよう、同情のほかはありませぬ。政治的折衝のために他町村に集団移入学をさせていながらをみせ、生徒が不幸なめにあつてゐる例は数少なくありません。かかる学校紛争の一例からしても、わが川西中学校の明るい統合はまことに画期的な事実であり、学区民いな町民全体の誇りであり、ここに生活する生徒にとつてはこれ以上ないあわれのことと思ひます。

友情と信頼の度を緊密にして、派生しやすい学習低下を防止しなければなりません。また保護者や学区民は所期の目的達成に強固な団結をはからなければなりません。

思うに、学校教育はその効果をなすしめんがためには、利用できぬ施設と設備、協力者である保護者と住民、指導者である教師と生徒をとりまく三つの総和が、欠くべからざる条件となります。したがつて、統合校舎建築前の施設と設備の不備は、ほかの二者で補充しなければなりません。川西中学校の二つと世帯はすでにほじまり三つと世帯がおこるかもしれないとき、校舎別の生徒がおたがいに他をねたんだり、あなどつたり、それにひかれて保護者まで心の動揺をきたすようになったとしたら、せっかくの大事業も九段(きゆうじん)の功を一簣(いっさい)にきりぬかれます。とうていその任ではないような気がいたします。でも、浅学のわたくしがもともと勉強し、みなさまからご支援をいただくことによつて、何とかこの重責を全うしたいもの、と新しい希望をわかせておられます。

すでに職員組織もでき、二つと世帯という不都合きまる当座の学校運営がはじまりました。当座とはいふものの、この期間の運営を一步でもあやまれば、将来とのかえしのつかない大事業をひき起すかも知れません。この当座の期間こそ、両学区民にとつて信頼と友愛の必要なことはありますまい。

すでに敷地買収の手はずがととのい、ブルのこだまに作業開始の合図を知る日もまじなごと思ひます。できるだけ早急に一世帯として、学校長を中心に、教育目標に向かつて実のある学校づくりがなされるのを待ちわびてゐます。しかし、最悪の場合は新旧三校舎制も考え、しばらくの不都合は耐えしのぶ覚悟がなければなりません。複雑な環境におかれればおられるほど、教師や生徒はますます

友情と信頼の度を緊密にして、派生しやすい学習低下を防止しなければなりません。また保護者や学区民は所期の目的達成に強固な団結をはからなければなりません。

川西中学校の統合は町内の学校統合の先べんであり、今後の統合の試金石であります。仙田中学第一分校や、田戸分校の本校への統合が今後にひかえています。地区民のせまい感情をとりきつて、大同団結で子ども達の幸福のため、よりよい教育環境をつくりあげたいものです。

川西町の町づくりの基本方針は産業経済の育成強化と教育文化のそく進にあるといわれています。

今回の機構改革にとともに、社会教育の仕事に専心できることになりました。とうていその任ではないような気がいたします。でも、浅学のわたくしがもともと勉強し、みなさまからご支援をいただくことによつて、何とかこの重責を全うしたいもの、と新しい希望をわかせておられます。

ありがたいことです。将来の川西町を背負うものは現在の青少年であり、理想郷をつくりあげるのにかからの知性と体力がその原動力であります。

現在の青少年を育成するのは学校教育であり、近き将来のからを育成するのは社会教育といふものの、これが連絡がなく、個々別々の教育では効果は発揮できません。ともに緊密な接触を保ち、多即一、一即多の関係で教育の実をあげ、よりよい学校づくり、町づくりの真価を示したいものです。

町づくりの基本方針にのっとり、明るい町政のもとに豊かな住みよい町が建設されている現実を学校統合に焦点を合わせ、町民としての喜びを胸に秘めながら結びたいと思います。

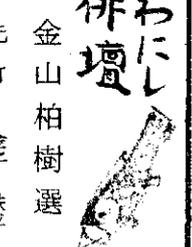
（筆者は川西中学校教諭・千手出身・原文のまま）

かわにし 俳壇 金山柏樹選

元町 金子 鉄平 寺山の太樹の中におぼる月と殺場の溝に春蚊のたけにけり 小国町 小川 黄梅 ○轉りや松の切り株匂い来る 小白倉 香 坊 陽炎や療舎に蒲団ふくらみて 小白倉 正 信 雪消ゆる一日ごとに土の道 大倉 金子 洋石 踏音やかかるとろすく草の浜 越ヶ沢 小川 辰治 山の子の風あける空雲一朶 小白倉 田中 緑風 春の空球音高く澄みわたる

★ 機構改革のあわただしさの中で、わたしにとっては最後の編集を担当させていただきました。 ● 数えてここに三十一号、これまでご支援くださったかたがたに心から感謝いたしております。 ● 毎号の活字に思いが つきませぬ。「書く」とを学んだ三年間でした ● 次号からは新しい企画で、新しい「広報かわにし」が生まれることを期待してゐます。

● たいせつな、社会教育の仕事が待っています。みなさま、学習のお手伝いをさせていただきます。 ● 風がおる五月、すばらしい季節ですね。心のもちかたで、一生を五月のように暮らすことはできません。住みよい町にしましょう。



お別れにあたって

広報かわにし 編集人 金子 幸 作

お別れにあたって ちおう解任させていただきますことになりました。長い間つねにはげましのおこたはをいたいただき、不備なものであったにもかかわらずご愛読くださつてありがとごさいます。 後任については目下入選中でございますが、わたくしでもできるだけお手伝いさせていただきます。これまでどおり、よろしくご支援のほどをお願い申し上げます。

季節労働者を募集

農業技術の導入と資金の獲得を目的に、町から毎年多数の季節労働者(田植えや麦刈り)を送つております。ことしも長野や群馬からたくさんの方々が来ています。視察を兼ねて就労されたいかがでしょうか。受け入れ条件は昨年よりも良くなつております。ご希望の方は役場に申しこんでください。 記 期間 六月十日ごろから一カ月 賃金 食事付き日収五百三十円 資格 満十八才から五十才まで 〇くわしいことは申しこみと同時にお知らせいたします。